

今、明かされる政宗公と母義姫の
知られざる深い絆

伊達政宗毒殺未遂事件と
弟 小次郎手討ち事件の真相



エフエム仙台 (date fm)
名護 ひとみ アナウンサー
宮城県民共済ラジオ番組
「みやぎスマイルプロジェクト」担当
仙台生まれの仙台育ち



元・仙台市博物館館長
さとう 憲一 さん
伊達政宗研究会代表
大崎市文化財保護委員
美里町文化財保護委員

名護 はい、そうですね。まず二つの疑問点ですが、跡取りの問題です。当時の政宗公には子供がいまいませんでした。いくら憎い弟といえども唯一となる跡取り候補に手をかければ伊達家の存続が危ぶまれます。二つ目の疑問点は、政宗公と義姫の関係性です。事件の後に政宗公が母に宛てた手紙は、どれも親子の深い愛情が伺えます。特に秀吉の命令で朝鮮に出兵した際の手紙では、「無事に帰って、もう一度お母さんに会いたい」というようなことを記しています。

名護 自分を殺そうとした人に対し

毒殺未遂事件の不可解な疑問点
名護 壮絶な身内争いとなった事件ですが、研究を進めていくにつれ、いくつかの疑問点が浮かび上がってきたんですね。

佐藤 はい、そうですね。まず二つの疑問点ですが、跡取りの問題です。当時の政宗公には子供がいまいませんでした。いくら憎い弟といえども唯一となる跡取り候補に手をかければ伊達家の存続が危ぶまれます。二つ目の疑問点は、政宗公と義姫の関係性です。事件の後に政宗公が母に宛てた手紙は、どれも親子の深い愛情が伺えます。特に秀吉の命令で朝鮮に出兵した際の手紙では、「無事に帰って、もう一度お母さんに会いたい」というようなことを記しています。

伊達政宗毒殺未遂事件の概要
事件が起きたのは天正18年(1590年)、政宗公が24歳の時。豊臣秀吉による天下統一の総仕上げとなる小田原征伐に政宗公が参陣する直前、会津黒川城(後の会津若松城)で起こりました。母、義姫から陣立ちのお祝いとして馳走に誘われた政宗公ですが、お膳に着せつけられたとたん激しい腹痛が襲います。屋敷に戻り薬を投与され一命をとりとめた政宗公ですが、これは弟の小次郎に跡を継がせようとする母、義姫の実家、最上家の陰謀により、母が自分を殺そうとしたのだと考えられます。

元仙台市博物館館長
佐藤 憲一 さん × **名護ひと美**
エフエム仙台 (date fm) アナウンサー

宮城県民共済がエフエム仙台にて毎週金曜日にお送りしているラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト」宮城の歴史さんぽ道」。伊達政宗公生誕450年記念の、特別番組第二弾をお送りいたします。

今回は、仙台市博物館の元館長で伊達政宗研究会代表を務める佐藤憲一さんをゲストにお迎えし、政宗公の歴史の中でも謎が深い伊達政宗毒殺未遂事件と弟、小次郎手討ち事件の真相についてお話ししました。番組のオンエアに先立ち、対談の一部を誌上に公開します。インタビューは、今回も名護ひと美さんです。



▲秀雄は伊達輝宗(伊達政宗公の父)の二男で政宗の弟であると記してある大悲願寺の過去帳

名護 弟ですか？政宗公には小次郎の他にも弟がいたのですか？

佐藤 政宗公の家系図によると、政宗公の弟は小次郎一人だけです。寺の過去帳にいい加減なことを書くとは考えられませんので、この秀雄は小次郎と同一人物の可能性が高いのです。小次郎は大悲願寺の住職として生きていたのではないかと私には考えています。

政宗公の弟を名乗る二人の人物
名護 毒殺未遂事件から4年もの間、政宗公と義姫は一緒に住んでいたということになりますね。女性の立場から考えると、愛する弟を殺した兄の政宗公と4年もの間も一緒に暮らすなんて考えられません。政宗公は本当に弟の小次郎を殺したのでしょうか？

佐藤 実は、そのことに関しても興味深い資料があります。東京都あきるの市横沢に大悲願寺というお寺があり、この寺の15代住職に秀雄(しゅうゆう)という人がいるのですが、寺の過去帳によると、なんとこの人は政宗公の弟であるとされているんです。



毒殺未遂事件に隠された政宗公と義姫の絆
佐藤 それは、事件が起きたとされる当時の時代背景が大きく関与しています。政宗公は母、義姫の実家である最上家が弟の小次郎を擁立しようという陰謀を持っていると長い間、危惧していました。自分が小田原参陣で戦に行っている間に、政宗公を擁立しようとする派と小次郎を擁立しようとする派とで内乱が起こってしまうのではないかと、う恐れを感じていました。そこで、弟の小次郎が死んだことにすれば弟を擁立しようとする派を掃き、政宗公が伊達家を一本化する事ができます。これは伊達家を守るため、政宗公と義姫が一緒になって作った架空の物語、狂言だったのではないかと考えています。

名護 なるほど。そう考えると辻褃があいませぬ。でも先生、政宗公としては伊達家一本化を図り安心して戦にいかれるかもしれませんが、残る義姫はどんな気持ちだったのでしょうか？自分の子供を毒殺しようとしたという悪評の目で晒されるのは、耐え難いものがあったのではないのでしょうか？

佐藤 義姫という人物は、勝気で頭が切れ男勝りな性格というのは良く知られていますが、伊達家と義姫の実家である最上家、両家の安泰を誰よりも強く願っている人でした。そのことが良くわかるエピソードが、天正16年(1588年)の中山口の合戦です。伊達家と最上家が国境を境に戦になった際、義姫は両者の間に割り込み、停戦するまで退かないと80日間もの間居座り続け、両者を和睦に導きました。

名護 身を挺して両家の争いを止めるとは、並大抵の覚悟でできることではありませんね。

佐藤 両家の安泰を心から願う、勇敢で果敢な行動力を持った義姫という人ならば、毒殺未遂事件の汚名を被つてでも両家を守るための狂言を行えたのではないかと思っています。政宗公の生涯で一番の闇であった毒殺未遂事件は、政宗公と義姫の深い絆により、伊達家を守るために作り上げたものだったのだと私は考えています。

特別対談の詳しい内容は
エフエム仙台
10月15日(日)
夜7時~7時55分
みやぎスマイルプロジェクト
「宮城の歴史さんぽ道 特別編」
伊達政宗公生誕450年
の中で放送します。
どうぞお楽しみに。



歴史というのは視
点が変わると、全く
違う印象や物語が
読みとれるものなん
です。佐藤先生、
本日はありがとうございました。

分の子供を毒殺しようとしたまさに「奥羽の鬼姫」という印象でした。しかし、今日のお話を伺い、自分の命と名譽を投げうってでも両家の安泰と家族を守るうとした優しくたくましく、愛の溢れた女性の姿が浮かんできます。また、政宗公の一族を守り抜くための思慮深さもよく理解できました。